

# Interview

日本で他にない、  
ありがたい環境で  
競技をさせて  
いただいています。

セパタクロー日本代表（09年～現在）

小林裕和選手 *Hirokazu Kobayashi*

インタビューに現れた小林選手は、好青年然とした第一印象。

とても丁寧な語り口で、競技のこと、日常生活のこと、

仕事のことなど語っていただきました。



## ◆プロフィール

1986年5月26日長野県須坂市生まれ（30歳）、身長176cm、体重69kg。松商学園高校サッカー部から日本体育大学セパタクロー同好会に進み、SC TOKYOを経てA.S.WAKABA所属。09年に日本代表に初選出、以来アジア大会など数々の国際大会に出場し、現在も代表の主力。ポジションはサーバー（トサーも可能）。趣味は音楽鑑賞、好きな言葉は「ありがとう」。

所属チーム：A.S.WAKABA

Facebook <https://www.facebook.com/SetagayaSepak>

## 仕事と競技の両立を求めて、 縁あって白寿に。

——セパタクローを始めたきっかけは何ですか？

高校まではサッカーをしていましたが、日体大に進学した際に新しいことを始めるのも面白いかと思っていたところ、友人の誘いでセパタクロー同好会の体験会に行きました。セパタクロー自体、競技人口が少なくコミュニティが小さく、日体大の場合は大学のOBや当時の日本代表選手が数多くいて、一緒に練習することが多かったんです。OBが母校に来て練習している環境だったので、華やかなオーバーヘッドキックを見たりしてカッコいいなと思って。日本代表の選手が近くにいる大学生も日本代表になっているので、代表になる距離もサッカーに比べたらだいぶ近い、そこに興味が出て始めたのがきっかけですね。

今では練習に加え、世田谷区で講習会を開催したり、さいたま市のレッズランドでスクールも行っています。

——アタッカーがほぼ毎回オーバーヘッドキックをするのは、見てびっくりしますね。

そうですね。サッカーだったら1試合に1回あるかないかのプレーを毎攻撃で行うということと、あとボールが小さいのでそれを足で扱う繊細さというのがまた競技の魅力のひとつです。

——白寿生科学研究所（以下白寿）に入ったきっかけは何だったんでしょう？

大学の後輩で中塚（現・川崎モアーズ店アシスタント）という女子セパタクロー選手がいるんですが、彼女は大学生の時から日本代表選手で卒業後は一般企業に入ったんですけども、働き始めると代表活動ができなくなってしまって普通の社会人として生活していたんです。けれども、どうしてもセパタクローがやりたいと、2年前アスリート契約として白寿にお世話になることになったんですね。で、彼女の働き方や競技生活環境も見ている「あぁいいな」と。

### ◆セパタクローとは…

「足のバレーボール」とも呼ばれる球技。バドミントンと同じ広さ・ネットの高さのコートを用い、プラスチック製のボールを、手を使わず足や頭で打ち合う。1チームはサーブをするサーバー、トスを上げるトサー、相手コートに蹴り込むアタッカーの3人で構成される。東南アジアでは9世紀頃から行われてきた伝統的スポーツで、1988年に国際セパタクロー連盟が設立され世界中に広まりつつある。

日本セパタクロー協会 <http://jstaf.jp/>





また、今年ちょうど新卒でセパタクロー選手が2人入社したんですけれども、彼らも私もちょうどポジションが違って、卒業間近に一緒に練習するようになって「同じチームになって試合に出られたらいいね」って話はしていました。その時に、白寿にこの2人はお世話になるし中塚もずっとお世話になっていて、3人でやるスポーツなので自分も含め3人同じ会社に所属させていただけたらセパタクローのチームで白寿のアピールもできるんじゃないかなと思って。

そこで中塚に相談したところ、今年の2月に実際に働いて

いるところを見学させていただきました。その後、人材開拓課の田口課長から人事の方と面談する機会がいただけたので、原副社長ともお会いして、自分が今セパタクローの競技に講習会などいろんな活動もしている中で、セパタクローを通してこの会社でこういうことをしていきたいなどとお伝えさせていただくと、「じゃあうちに所属してスポーツも仕事もがんばればいいんじゃないの」ってお返事をいただけて入社させていただいたんです。

## 白寿からの様々なサポートに、ぜひ結果で恩返ししたい。

——社内でのお仕事は？

今はアスリート契約という雇用形態で。営業支援部販売促進課で本社に勤めて、プラザに関するPOPや販促物、集客企画や販促企画を考える仕事をしています。あとは広報的なところで社内報の作成や白寿の公式Facebookで企業活動や、それこそアスリートが大会に行った報告などをアップして「白寿ってこういう会社なんだな」といろんな方に知っていただく発信をしています。

——白寿からのサポートにはどんなものがありますか？

基本的には月曜から金曜に定時まで働いて夜は練習に行かせていただいて、あとは日本代表に関わる合宿や遠征

に関してはお休みをいただいたり遠征費の補助もいただいたりしています。基本的に代表選手でもセパタクローの場合は費用すべて個人負担で、競技の盛んな東南アジアに1回遠征に行くと飛行機代など諸々含めたら10万円くらいかかりますので、飛行機代などは負担していただいたり。そのぶん結果などで恩返ししていかなければいけないと思っていますね。

——そういったサポートについてどう思われていますか？

セパタクローっていう競技自体がまだ協会やスポンサーからのお金で成り立つところまで行っていないので、費用面であったりお休みであったり、かなり厚くサポートしていただ



①白寿所属選手。左から内藤利貴選手、太田駿一選手、中塚直子選手、小林選手。②サーブを蹴り込む瞬間の小林選手。足は頭よりも高く上がること。③勝利を収め、チームメイトはじめスタッフや仲間たちとハイタッチ。④試合中の1シーン。「空中の格闘技」との異名にも納得の迫力ある攻防。



けるのは日本の会社で今はたぶん他にないですよ。言ってしまうとマイナースポーツで会社にもそこまで宣伝効果があるとはいいにくい、その中で選手を雇っていただいて働きながらお給料をいただいてかつ遠征にも行かせていただいてという環境はありがたいことなので、私以外のメンバーもそうなんですけど、原社長・副社長の思いに本当に感謝しています。職場の皆さんも温かく「がんばってこい」と壮行会なども開いていただいているので、ありがたく人にも恵まれている環境にいると感じます。

—アスリートとして競技や健康のために心がけていることは？

食事をしっかり摂ることは当たり前で。プロテインなどサプリメントや、寝る前にエルイオンカルシウム8910も飲んでます。あとはボールを使ったトレーニング以外にウェイトトレーニングや柔軟体操もしています。

でもいちばんはヘルストロンに座っていることですかね。社内にヘルストロンがあるので昼休みが終わるまでヘルストロンにずっと座ってというのは毎日やっているので、疲れが取れたり寝つきがよくなったりというのは自分の中で感じていますね。

—ヘルストロンについてはどう思っていますか？

自分自身も症状が変わったところが1つあって。入社半年ぐらい前に練習で首を痛めてしまったんですね。ハリやマッサージなどいろいろ手段は試したんですけど、だままだまし痛みとつき合いながら練習していたんです。でも入社してヘルストロンに座り始めて1週間ぐらいで「あれ、そういえば首痛くないな」って感じるようになって。今はちょっと座らない日が続くとルーティーンが崩れてしまう感じにはなっていますね。（※小林選手個人の感想です。）

—最後に、この冊子を読む方に向けてメッセージをお願いします。

1つはセパタクロという競技をぜひ知っていただきたいなと。あと1つはセパタクロだけでなくプロ野球やJリーグ、女子ラグビーなどのマイナースポーツまで、そういったスポーツ事業にも健康産業の白寿っていう会社が携わっていたり、アスリートとただ契約してお金を払うのではなく働きながら競技をするアスリートを支援している取り組みもぜひ知っていただきたいですね。白寿は医療機器を通し、人々の健康や幸福な暮らしをお手伝いする企業です。ぜひ白寿の企業活動やアスリートの活躍にご期待ください！

